くまもと市 PTA会報
題字　大西 一史 市長

第36回 熊本市PTA研究大会

令和4年11月12日(土) 熊本市民会館シアーズホーム夢ホール

今年度のテーマは「つながり」～安心できる居場所をつくるPTA～です。

コロナ禍により、保護者・学校・地域と思うように交流することができず、人との「つながり」を実感する機会が減りました。しかし学校や地域と連携しコミュニケーションをとることでPTA活動がより充実し、子どもたちが安心・安全な学校生活を送ることができます。そしてそれは安心できる居場所づくりにもつながっていると考えます。人との距離が縮まらない今、改めて「つながる」ことの大切さを考える時間となりました。

当日の様子は市PのHPに載せておりますので、皆さまぜひご覧ください。

（教養委員長　内村　由起）

開会行事

8名のご来賓の方々を代表して、遠藤洋路教育長代理 青少年教育課長 上村様からは、熊本市における教育への取り組みを紹介されたあと、地域だけでは解決できない様々な課題をみんなで助け合い、子どもたちにとってより良い教育環境を作り上げていきたいと教育に対する熱い思いが込められたご挨拶をいただきました。

◆熊本市ＰＴＡ協議会　松島会長挨拶

託麻中学校では小学校・中学校合同で弁論大会が3年ぶりに実施されました。児童生徒たちから平和への想いや、さまざまな差別への思いが語られ、中学校の校長先生の講評では、「子どもたちの考える社会問題の原因を作っているのは、我々大人ではないだろうか?」と、述べられました。

私自身反省するとともに、本研究大会や各学校における研修は、私たち大人が社会問題を考える貴重な機会であることから、今後も大切に行っていくべきと再確認しました。保護者の皆様の貴重な時間を頂戴するわけですが、家庭環境・学校環境だけではなく、社会環境も整える必要があり、社会に貢献する役割を担っていきたいと思います。皆様にもこの役割を十分理解していただき、今後も協力をいただければと思います。

◆全体講演

『つながり』～こうのとりのゆりかご 開設15年に想うこと～

元慈恵病院 看護部長　田尻　由貴子 様

田尻さんは、こうのとりのゆりかごの開設に携わり運営の中心的役割を果たされ、これまでたくさんの母子を救い命を繋いでこられました。退職後は命と愛をテーマに幅広い活動をなされています。

まずはじめに人間の一生にかかわってきて学ばれたこと。生を受けて死が訪れるまでの節目節目に何が大切なのかを述べられました。

生まれてからの愛着のきずな、幼児期の健やかな育ち、性教育はいのちの教育。

まずは親が学ばないと、なぜそれらが必要なのかが分からない。中学校までの学校教育・家庭教育がいかに大事であるか、このことがその後の人生を左右することを実感されています。

また、こうのとりのゆりかごについて、預け入れの実態から受け入れ後の行政との連携、ゆりかご相談を受け入れ見えてきた現実に起こっている子どもを取り巻く社会的問題を詳細な資料とデータで教えていただきました。

田尻さんの「いつの時代も子どもたちは変わっていない。関わる大人たちが問題であり、変わったのは大人である」とのお言葉に、何かハッと気づかされたような思いでした。

最後に「社会で子どもを育む。子どもは一人ひとりがかけがえのない存在である。人はヒトとして生まれ、育まれて人間になる。ヒトが人となる基本原理。ぜひ7つの愛を実践してください」とやさしく力強いメッセージで締めくくられました。

この講演を聴いて、子どもとどう向き合うか、どう寄り添うのかを見直すとともに、親として学ぶことの重要性をあらためて確認することができました。とても貴重なお話をいただきありがとうございました。

◆ＰＴＡ活動報告①

『継往開来を重ね、子どもたちの笑顔を求める活動』

田迎南小おやじの会会長　橘　勇作 様

田迎南小学校でおやじの会の会長を務められている橘様。おやじの会が直面している課題を乗り越え、子どもたちのために日々活動されていることをご発表いただきました。子どもたちを喜ばせたい！というゴールに向かって、先ずは自分たちが活動を楽しみ、家族が楽しむ。それが最後に子どもたちの笑顔につながる。私たちの活動の中でも、どうやったら活動に参加してくれるのか？賛同者を集めればよいのか？悩むなか、今、私が置かれている現状も同じような気がします。そもそも、私たちがすべきことは「子どもたちを喜ばせること」であり、その前に自分たちも楽しくなければ実現できない。共通の課題を持っていた私にとっても、いくつもの〝気づき〟を与えていただけた講演だったように思います。

「子どもたちがおやじの会に入った時に、僕たちのお父さんがやってきた活動だよとなるようにしたい。もっともっとおやじの会を発展させていきたい。地域の子どもが大人になるまで、第二の親となる存在でありたいと考えています」と熱い想いが込められた言葉で締めくくられました。

（力合西小学校ＰＴＡ　副会長　松永　圭史）

◆ＰＴＡ活動報告②

『居場所づくり～私たちができること～』

中島小学校ＰＴＡ会長　清水　智子 様

中島校区の子ども食堂の活動に関して、取り組み事例をご紹介いただきました。コロナ禍での一斉臨時休校。ある日突然休校、子どもは学校に行けない。育成はない、親は仕事。では、子どもたちの食事はどうなっているんだろう?と疑問・心配に思いアンケートを実施したところ栄養バランスが偏っている、インスタント・間食が増えた、体の変化があった、などの声が寄せられました。そういった子どもたちのために食や居場所の支援ができる母体が欲しい。

困っている子どもや、地域の課題にすぐに手を差し伸べる環境が欲しいとの想いから令和2年にスタートされました。子ども食堂という言葉は、皆さん耳にすることも多くなってきたのではないでしょうか?今回、清水様のご講演を聞く中で今の社会環境の変化や子どもたちが置かれている環境を考えるとき、今後「子どもたちの居場所」としてますます必要になってくるのではないかと感じました。

（力合西小学校ＰＴＡ　副会長　松永　圭史）

以下の二次元コードから、動画を見ることができます。

開会行事 https://youtu.be/KMA2hZRBb-4
ゆりかご https://youtu.be/Bd1ncV8xV9E
中島 https://youtu.be/VDvZhrDnI-E
田迎南 https://youtu.be/L-Z2nB01Pu4

第14回くまもと教育・文化フォーラム

令和4年11月13日（日）
くまもと県民交流館パレアホール

～テーマ～
『生きがいを感じるとき、そして喜びを感じるとき』

本フォーラムは、文部科学省が11月1日から7日までを「教育・文化週間」と定めていることから、平成20年度から開催されています。

冒頭、主催者として熊本市退職校長会の長野了一会長より「教育の種を育て、育て続けること、そして自己の学びを継続することが重要であり、本フォーラムがそのきっかけとなれば幸いです」と挨拶がありました。

今回は「生きがいを感じるとき、そして喜びを感じるとき」をテーマに、黒髪小学校、城北小学校ＰＴＡ、熊本市教育センター研究員の先生から発表が行われました。

その後、講演会では、弁護士の森徳和氏（熊本市ＰＴＡ協議会会長、熊本市教育委員等を歴任）による「転換期に立つ熊本市の教育～コロナ禍で明らかになった問題点～」と題した講演がありました。森氏は、全世界を襲った新型コロナウイルスによる子どもたちへの影響について、巣ごもりによる体力低下、不登校児童生徒数の増加、マスク着用によるコミュニケーション能力の低下等を危惧されていました。また、公教育を取り巻く環境の変化として、小中学生の読書について平均読書冊数が増加していること、電子書籍よりも紙の本を好んでいることがわかっている一方で、熊本市は政令指定都市の中で図書購入費が最下位であることを問題の一つとしてあげられていました。

（白川小学校ＰＴＡ　副会長　前田　和則）

熊本市PTA協議会
会　長　松島雄一郎
編集責任者　村田　浩充
〒861-8074 熊本市北区清水本町16-10
熊本市健康センター清水分室新館 2F
TEL(288)3750　FAX(288)3754
https://kumamotocity-pta.net
info@kumamotocity-pta.net
印刷：㈱キャップ TEL(362)3333

「第67回 日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会 おきなわ大会」

12/17(土)・18(日)

大会スローガン　ひろげ・つなぐ・未来へのリレー　～結のこころで～

12月17日・18日に日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会おきなわ大会が開催され、九州各地から約４０００人の会員が集いました。熊本市ＰＴＡからは約１５０名の方が参加され、各会場ではオープニングアトラクションで琉球舞踊など沖縄の伝統文化が披露され大いに盛り上がり、さらに行く先々で他校や他県ＰＴＡとの交流が繰り広げられました。

また、熊本からは熊本市立城北小学校ＰＴＡ、熊本県人吉市立第二中学校ＰＴＡが提言者として発表し、活発な協議が行われました。

ここでは第１・３・４・５分科会と全体会をご紹介します。

第1分科会　組織・運営【未来】

〈新しい時代を創る三里っ子を育てよう〉を佐賀県小城市立三里小学校育友会、玉井会長が発表され、〈未来へつなぐＰＴＡ活動～運営の工夫と活動内容の見直しを通して～〉を長崎県佐世保市立三河内中学校ＰＴＡ笹口会長が発表されました。

三里小学校では、学校・保護者・地域が豊かに関わりあうことを大切にされているとのこと。小規模校の良さを生かし上級生が下級生をサポートしながら、逆に下級生は上級生の活動をお手本にしながら、授業や地域での様々な活動に積極的に取り組んでおられます。またユニークな活動を行う「父親委員会」や誕生月に1冊、6年で6冊プレゼントする「みさとはっぴぃぶっく活動」を13年間続け、毎日本を読む「家読」を推奨しておられました。

次に、三川内中学校では、すべての保護者がＰＴＡに入会しており、会員がＰＴＡの大切さや活動への参加について理解が深く、役員選出等も円滑に進められるとのこと。年々少子高齢化が進み生徒数が減少する中でも、組織改編・活動内容の見直しを行い、ＰＴＡ活動への父親の参加が増え会員同士の新たなコミュニティの広がりがあったそうです。

２校の発表を聞き、学校と地域のつながりの重要性を強く感じました。私の地区の川尻小でも昔から地域色が濃い地域であり、すでに様々な行事ごとに各関係者と連携した活動をしています。

今後は、子どもを中心に、学校・家庭・地域・ＰＴＡ・行政が1つになって連携することで、単体のものが結びつき、それぞれの存在意義を見出すとともに、それぞれがさらに成長・発展することができるよう、まずはＰＴＡから発信していきたいと思いました。それが達成できたら、こういう場でぜひ発表したいと思います。

（川尻小学校愛育会　副会長　古賀　喬）

第3分科会　学校教育【協働】

熊本市の城北小学校ＰＴＡと鹿児島県別府中学校ＰＴＡが登壇され、それぞれ特色ある【協働】についての提言がなされました。

城北小学校ＰＴＡは、「会員・組織の関わり方改革」を進めながら、コロナ禍でも地域との協働活動を続けるために、変容した形で様々な活動を行っており、ＰＴＡ活動を「自由で楽しいもの」として取り組んでいる様子が分かりました。別府中学校ＰＴＡは、過疎化が進む地域の中にあって、「地域の文化・顔見知りが多く住む校区」という強みを活かした活動が印象的でした。

提言の冒頭、小嵜会長の「みなさん、はいさ～い!!」の言葉に会場からも「はいさ～い!!」手を振っての応答。指導助言者は、城北小着任時、小嵜会長とともにＰＴＡの「関わり方改革」を行ってきた西川校長先生（現本荘小校長）。助言の中では、「関わり方改革」を成した会長の人柄にも触れられ、学校と保護者との信頼関係が垣間見えました。

研究討議では、司会者と提言者との軽やかな会話が飛び交います。会場からは、「Ｙｏｕｔｕｂｅちゃんねるの開設・運用」や、「任意加入の発信の仕方」などについての質問があり、会場とステージ間での討議は、対面研修ならではのものでした。

３年ぶりの対面による大会ということもあり、今回初めて参加する人が多かったようですが、想いがひとつだとこんなに充実した時間になるのだと驚きました。ＰＴＡ活動を通して、人として、親として、成長していく姿を子どもたちにも届けられたらと改めて思える一日となりました。

これからも〝想いをかたち〟に…にふぇーでーびる!!（ありがとうございました!!）

（清水中学校ＰＴＡ　副会長　山内　裕美）

第4分科会　人権・環境【明るい社会】

大分県九重町立南山田小学校ＰＴＡと、福岡県うきは市立吉井中学校ＰＴＡの発表でした。

南山田小学校ＰＴＡでは、人権について考える時間を持つために親子人権講演会を10年前に設け、講演会後、家に帰ってからも講演の内容について親子で話すことを促しているそうです。一方、コロナ禍での取り組みとしてノーメディアデーと親子読書、勇気が出る言葉の取り組みを行ってきたそうです。この取り組みによって毎日のコミュニケーションや挨拶という面で子どもが育ってきたと実感したそうです。子どもの発達段階に合った人権教育や、自己肯定感を高めるリフレーミングが大切だと改めて感じました。

また、吉井中学校ＰＴＡからは、スマホに係る吉井中新家庭教育宣言について発表がありました。

一、スマホ等の通信機器（ＬＩＮＥ）によるコミュニケーションを極力避けるようにする。

一、スマホ等の通信機器（ＬＩＮＥ）の自宅での使用はリビングに限定し、夜10時から朝6時までは保護者に預けるようにする。

一、通信内容はいつでも親が確認できるようにする。

一、食事中、人と話している最中、勉強時間中、自転車の運転中は使用しないようにする。

この分科会を通して、人権教育のためには地域と学校が繋がりながら共に子どもたちを育んでいくことが大切だと感じました。まずは大人も学び、できることからはじめ、子どもたちの明るい未来のために努めていきたいです。

（中島小学校ＰＴＡ　副会長　鶴田　友美）

第5分科会　広報・地域連携【発信と連携】

「地域で育む子どもたち」～ともに学び共に成長する～をテーマに福岡県北九州市立大谷小学校ＰＴＡと「令和2年7月豪雨」と「コロナ禍」を経験して～ＰＴＡ新聞発行の工夫と地域連携の在り方～をテーマに熊本県人吉市立第二中学校ＰＴＡの発表が行われました。

大谷小学校の発表は世の中全体のデジタル化、オンライン化の進展に伴う子どもたちのメディア依存の問題についてでした。「大谷子ども教室」を開設し、学生たちのボランティア、自治会も交えて様々なイベントを行っているそうです。自治会のご年配の方々に参加してもらうことで子どもたちとの距離も縮まり自治会イベントに参加する子どもたちも増えたとのことでした。「子どもたちのメディアへの依存防止と依存脱却」の目的達成に向け「子どもたちが何に悩み、何をもとめているのか」を真剣に考えることが目標達成への近道と話されていました。

続いて熊本の人吉市立第二中学校の発表でした。宮崎会長が登場すると人吉から応援に来られたたくさんの方々の声援に包まれとても温かい雰囲気になりました。人吉市はご存じの通り豪雨災害に見舞われ大変な思いをされました。その中で情報発信の大切さを感じ地域の方々にも見ていただける紙面作りに努められたそうです。どこの学校でもある広報誌の疑問や悩み。こちらでは紙面のレイアウト及び用紙サイズ・発行回数の変更、マンネリ化した挨拶文を減らしインタビューを実施し生の声を掲載、2次元コードを活用した動画配信、コロナ禍で希薄となった保護者間の情報交換の場を作るなどしたそうです。

質疑応答では熊本県からの質問がたくさんあり皆さんが積極的に会に参加しておられました。

2校の発表を通してまだまだ自分たちの学校でも取り組めそうなことがあるのではないかととても考えさせられ、また研鑽を重ねることができました。社会の変革に伴い、ＰＴＡが積極的に組織のひとつとして関わり参画できる魅力あるＰＴＡでありたいと思いました。

（武蔵小学校ＰＴＡ　副会長　石永　麻衣）

全体会　記念講演

ガレッジセール・ゴリと考える、『子育て』とは？

講師　ゴリ（ガレッジセール）

２日目の全体会は沖縄アリーナで行われました。当日はイメージしていた南国沖縄ではなく、冷たい強風。そんな悪天候の中でも沖縄県Ｐ会員さん、スタッフの方々は必死にのぼり旗を支えながら、笑顔でお迎えをしてくださいました。

来賓として玉城デニー知事のご臨席とご祝辞、表彰式では熊本市ＰＴＡ協議会から前副会長の山本健次さん、西本彰文さん、吉田英太郎さんが表彰されました。

後半はガレッジセールのゴリさんの講演。６歳で那覇から大阪の親戚のもとに引き取られ過ごした幼少期、やんちゃな思春期、ご自身の子ども時代のご苦労と努力、親との関係や自身の子育てについて語られました。さすがにしゃべりのプロです。笑いあり涙ありの講演に会場は和やかなムードに包まれました。

日本ＰＴＡ全国協議会主催 年次表彰式

令和4年11月18日(金)ホテルニューオータニ(東京)

熊本市ＰＴＡからは、文部科学大臣賞に「城北小ＰＴＡ」(他熊本県からは、玉名市立滑石小学校・宇土市立宇土小学校・八代市立東陽小学校ＰＴＡ。全国102団体)が受賞。日本ＰＴＡ会長賞(個人)に、熊本市ＰＴＡ協議会　前副会長の「吉田英太郎さん」「山本健次さん」「西本彰文さん」(全国223名)が受賞されました。

本年度、創立60周年という記念すべき年に、「優良ＰＴＡ文部科学大臣賞」を受賞することができ、大変嬉しく思います。

受賞できた要因の一つに平成30年から取り組んでいる「ＰＴＡの関わり方改革」があったのではないかと考えています。私がＰＴＡ会長1年目の時、当時の校長先生(現：本荘小学校の西川校長先生)から、「会長さん！一緒にＰＴＡ改革をしましょう！」と声を掛けていただいたのがきっかけでした。

ＰＴＡ活動のヒントは、ＰＴＡ会則にあります。会則の冒頭には、決会当初からの学校・児童・保護者・地域に対する想いが込められています。

そして、会則の末尾にある改変の履歴には、その時々の執行部の方が、その時代に合ったＰＴＡにしようとしてきた〝歩み〟を見ることができます。

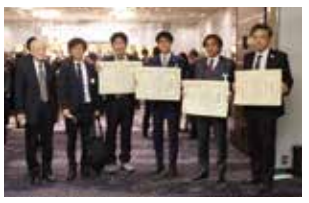
初代会長さんから受け継がれてきた城北小ＰＴＡの歩みが、創立60周年の年に評価されたのだと受賞を終えて感じています。

「関わりこそＰＴＡの本分」

今年度信念として掲げている言葉です。この言葉は、昨年度、西原中を退職された山川校長先生からいただいた退任の言葉(関わりこそ教師の本分)から、ヒントを得たものです。

「関わり」から得ることの素晴らしさを、みなさんにそして子どもたちにも伝えたいと思います。

(城北小学校ＰＴＡ　会長　小嵜　友和)



各区ＰＴＡ連絡会 研修会開かれる

北区『スキルアップ研修会』

令和5年1月29日(日)北部公民館で各地区の担当者が集まりスキルアップ研修会を実施しました。

「各校区のＰＴＡ活動を知る」

生徒・児童数が比較的同じ規模の学校でグループを作りディスカッションを行い、各校がどのような活動を行っているかを共有しました。各校から出た活動の中で興味のある活動を深掘りし自分たちの学校に取り入れる方法を検討したり、各校区の不安や悩みの解決に向けた方法を話し合いました。

各学校の担当者と交流することにより、色々な情報交換ができました。また担当する校区での改善点を俯瞰することができ、ものすごく良い影響を受けました。

テーマの中に「世間が感じているＰＴＡのイメージを払拭したい」とありました。私も同じ思いで今期初めて役員をやっていますが非常に楽しい日々を送れています。親になり我が子に「大人になって後悔しないように今をしっかり頑張りなさい」と言っている親御さんもいらっしゃるでしょう。私は後悔しないように精一杯ＰＴＡ活動を行っていきたいと思いました。

(山東小学校ＰＴＡ　副会長　緒続　寛)

西区『わが子に大好きを伝えたい ～家庭でできる性教育～』

1月29日(日)熊本市民会館大会議室で西区ＰＴＡ連絡会研修会を開催いたしました。

今回は、ＮＰＯ法人熊本教育振興会にご共催いただき、講師にＮＰＯ法人せいしとらんし熊本 理事長　中村和可子氏をお招きし講演を行っていただきました。

保護者や教職員の方々など約１００名の参加があった中、家庭で必要な性教育、学校や家庭での性教育の連携など、今後の子育てに活かす内容をお話しいただき、とても実りある研修会となりました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

(城西中学校ＰＴＡ　副会長　坂本　卓也)

南区『～一人ひとりの個性といのちを考える～』

1月14日(土)アスパル富合ホール

「日吉中合唱部」

マスクを付けながらの歌唱は難しいだろうし、翌日がコンクールということもあり、緊張もあったと思いますが、そんなことは感じさせないほど素晴らしい歌声を響かせてくれました。

「熊本市が進める新しいキャリア教育」

小中学生を対象とした熊本市のキャリア教育の取り組みについてお話ししていただきました。知識や技能を学ぶだけではなく、どのように社会や世界と関わっていく豊かな心を育てるか、子どもたちの未来を見据えた新しいチャレンジの発表でした。子どもたちを飽きさせない内容とタイムスケジュールで構成され、かつ先生方の負担も少ないオンラインの利点を活かした取り組みは、大人でも興味深く感じました。熊本市の全小中学校で実現できることを期待したいと思います。

「野尻千穂子さん講演会」

小学6年生の時に突然の病気で胸から下が動かなくなり、障がいという現実を受け入れるには、たくさんの葛藤があったと思います。時々声を震わせながら、野尻さんは自分の思いを伝えてくださいました。度重なる手術と入院のご苦労、両親への思い、旦那様との出会いから結婚のお話。障がいを持っているがために、出産を反対されたこと。旦那様の言葉で出産を決意し、周りの協力を得ながら子育てを頑張られたこと。全てのお話が「生きること、いのちの大切さ」に繋がるものでした。また「親は子どもの一番の味方であって欲しい」「誰もが胸を張って生きていける社会になって欲しい」と願いを伝えられました。最後に「障がい者になってよかった。これからも生きるための努力をしていきます」と力強く語られました。

(力合西小学校ＰＴＡ　副会長　松永　圭史)

東区『こどもたちは地域の中で育つ』

宮津ファミリーホーム　宮津美光・航一氏

2月5日(日)二岡中学校体育館に宮津美光様、航一様親子をお招きし、(東区ＰＴＡ連絡会研修会)を開催いたしました。美光様には学生時代の地域ボランティア活動を皮切りに、中学校ＰＴＡ会長、ＮＰＯ法人立ち上げと地域活動を熊本市全域に広げた体験談を語っていただきました。問題をかかえる子どもたちを支援する取り組みは、子どもたちにとって安心できる場所を創り・支え・一緒になって楽しんでこられた賜物でしょう。その後、県内初となるファミリーホームを開設し、5人の実子に加え36人もの里子を育てられたご経験を、ユーモアと謙遜を交えながら、語られました。

航一様は、「こうのとりのゆりかごに預けられたことを公表され、里親となられる美光様のもとで育ったご略歴と、最近の取り組みとしてこども食堂を立ち上げられたご経験を語っていただきました。航一様から、お父様の言葉としてご紹介された「家族とは、血が繋がっているということではなくて、最後まで味方でいることだ、何があっても最後まで味方でいるのが家族だ」は、脳裏に深く刻まれました。

子どもが親の背中を見て育ち、親が子どもの成長に勇気づけられるエピソードの数々は、家族の尊さを考える貴重な時間となりました。さらに、地域で子どもを育てる取り組みは、ＰＴＡの存在意義、地域再生の役割をも担えるということを理解する機会となりました。子どもたち一人ひとりが、笑顔で輝ける場所を作ってあげることが、我々大人にとって何より大事なことのようです。

美光さん、航一さん貴重なお話をありがとうございました！

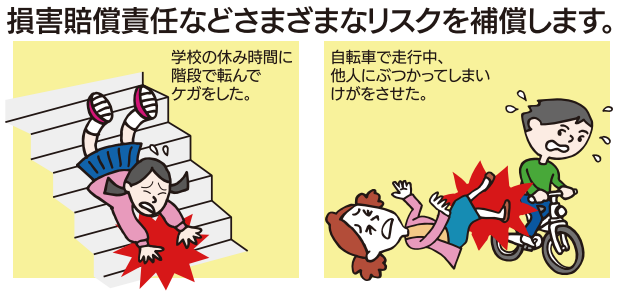
(東町中学校ＰＴＡ　副会長　益田　裕樹)

熊本市ＰＴＡ協議会

小・中学生総合保障制度のご案内

(こども総合保険)

学校内外でのケガや、偶然な事故による法律上の損害賠償責任などさまざまなリスクを補償します。



さらに、お子さまが病気になった時の補償や、お子さまの持ち物の補償、扶養者の方に万が一があった時の補償など、多くの補償でお子さまをお守りします。※

この制度の詳しい内容は、こちらからもご確認いただけます。
『小･中学生総合保障制度』https://www.pta-corin.com/

※補償内容,保険金額はプランにより異なります。
○この広告に記載の内容は、2023年1月現在の内容です。
ご加入の際には、パンフレットおよび重要事項説明書を必ずお読み頂いた上でお申し込みください。

お問合わせ

熊本市PTA協議会 小･中学生総合保障制度事務局

TEL:0120-228-553

受付時間：平日/午前9時～午後5時　〒810-0022 福岡市中央区薬院4-3-5 セレス薬院5F 株式会社コーリン内

制度引受保険会社：AIG損害保険(株),東京海上日動火災保険(株),損害保険ジャパン(株),三井住友海上火災保険(株),Chubb損害保険(株)

S-230390(2023-12)

熊本県PTA共済からのお知らせ (熊本県PTA教育振興財団)

春休み期間のご注意:

熊本県PTA共済は年度毎の加入となっています。本年度ご加入の共済期間は2023年3月31日までとなります。共済が適用される活動については、学校の卒業式後であっても、3月31日までの活動中の被災については共済が適用されます。小学校6年生や中学校3年生などが、進学予定の中学校や高校などでの部活動などに3月中に参加する場合は、共済の対象とはなりません。また春休み中であっても、4月1日以後に本年度の学年、学級、部など実施される活動は、本年度の共済の対象とはなりませんので、ご注意ください。

自転車でもヘルメットをつけましょう!出会い頭の事故が約半数を占めています!

本共済P災コースでは、生徒の皆さんの登下校中の交通事故にも共済金を給付しています。毎年、交通事故の大半が自転車による走行中の事故です。自転車による走行は事故の被害者のみならず加害者にもなる可能性があります。無理な横断や追い越しなどの危険な行為も見られるため、道路交通法、自転車安全利用ルールを守りましょう。交差点での一旦停止による安全確認をお願いします。令和5年4月1日より施行される改正道路交通法により、すべての自転車利用者に対し走行時のヘルメット着用が努力義務となります。通学時以外でも自転車利用時にはヘルメットを着用し、命を守る努力をしましょう。

新型コロナウイルス感染症、活動中の「感染予防対策」を、常に基本として継続しましょう

感染の拡大が止まらない新型コロナウイルス感染症です。無症状の感染者からの感染もあり、不織布マスクの使用が必要とされる場合には継続し、多くの人が密になって飲食をする、マスクの使用なしに室内の近距離で会話するなどの行為を避け、部屋の換気に努めましょう。

熊本県PTA共済に関するご質問やご連絡

共済の対象となる活動の範囲、事故発生時の手続き、様々な手続きに必要な書類など、お気軽にお問い合わせください。

熊本県PTA教育振興財団事務局

(共済契約の手続)：0800－200－5553

(共済金請求の手続)：096－223－7119

うちの学校のこんなトコ
単Ｐ紹介
紹介します！

輝く！　河内っ子
西区【河内小学校】

河内小学校は、熊本市の西端に位置し、東に金峰山、西に有明海を望み、四季折々の景色が素晴らしい自然豊かな学校です。

本校では、「笑顔・元気・やる気があふれる学校を目指して、子どもたちが主体的に考え行動する活動を推進しています。六年生を中心として、学校行事や係活動、緑化活動等に意欲的に取り組む姿が見られると同時に、将来の夢の実現に向けて勉強や運動に励んでいます。また、学年の壁を越えて活動する機会も多いため、上級生が下級生に教える場面も多く、「河内小五つの宝」をはじめ、大切な伝統を引き継いでいます。

更に、隣接する河内中学校と「小中一貫教育校」としてスタートして三年目となります。先生方や親師会の小中交流を積極的に行いながら、将来の河内を担う子どもたちの育成に取り組んでいます。保護者としても、小中の滑らかな接続や学力向上等に大いに期待しているところです。

これからも、子どもたちの輝く未来を応援し、そして、地域とともにある小学校となるよう、親師会として精一杯バックアップができるよう取り組んでいきます。

（河内小　親師会副会長　津田　礼峰）

多文化共生社会を実践する小学校
中央区【白川小学校】

本校は白川に架かる大甲橋のすぐ近くにあります。現在、校内では大規模な工事が行われています。本館の解体工事が令和3年（2021年）から始まり、現在、新校舎が建築中です。解体された本館は昭和11年（1936年）に建築され、第二次世界大戦を経験しています。戦争のつめ跡が残る歴史ある建物でしたが、老朽化のため建て直されることとなりました。

さて、本校のＰＴＡ活動は2年前に大幅な見直しを行い、ほとんどの委員会活動を廃止しました。今年度、ＰＴＡが主体として行った活動は制服マルシェと研修会の開催です。研修会では、保護者、教職員向けに異文化理解やさしい日本語講座を開講しました。菊陽町へのＴＳＭＣの進出を機に、今後熊本では急速に多文化共生社会へ進んでいくため、ＰＴＡ活動も柔軟に対応できるよう、学びの機会をつくりました。

また、委員会の代わりとして、保護者ができる活動のみをサークルまたは会という形で残しています。

その内、私が参加している親児の会の活動をご紹介します。親児の会では、子どもたちと体験型のイベントを企画しています。昨年度はカブトムシを幼虫から成虫になるまで育て、夏に譲渡会を開催しました。今年度は学校内に畑を作り、芋の苗を植え、11月に無事に収穫することができました。普段、生き物や食べ物を育てることを体験する機会が少ないため、子どもたちが楽しく活動に参加している姿を見ることができたことは保護者として大変うれしかったです。

コロナ禍で様々な活動が制限される中、白川小学校では保護者が工夫し、子どもたちのために活動をしています。

（白川小学校ＰＴＡ　副会長　前田　和則）

創立40周年を迎えて
北区【弓削小学校】

本校は、雄大な阿蘇を眺めることができる自然豊かな弓削の台地に、地域の皆さまの熱意と希望のもと、昭和58年に創立しました。一面の畑であった地に、木を持ち寄り、花を植え、地域と学校が一体となり緑豊かな学校が作られてきました。子どもたちは毎日、地域の皆さんに優しく温かく見守っていただきながら登下校し、休み時間や放課後には校庭で元気いっぱいに遊ぶ声が響いています。私たち弓削小学校ＰＴＡでは、子どもたちの安心、安全な学校生活の支援、そして学校行事では、先生方に子どもたちの指導に専念していただけるような体制作りを目指し、学校・保護者・地域で連携、協力し活動しております。

さて、今年度本校は創立40周年を迎えました。周年記念事業をＰＴＡと学校で計画し、9月には運動場で航空写真と全校児童と先生の集合写真を撮影。式典を控えた10月には地域の造園会社にご協力をいただき、ＰＴＡ美化委員会で花壇の整備をしました。そして11月、爽やかな秋晴れの日、無事に40周年記念式典、学習発表会を開催することができました。今後は子どもたちの安全な学校生活のために校庭の整備を計画しております。子どもたちを取り巻く環境は日々変容しておりますが、お互いを大切にし合う、助け合う心は弓削小学校が創立した当初より変わらない良き伝統です。これからも良き伝統を大切に、子どもたちそれぞれが目標に向けて羽ばたいて欲しいと、そして学校は子どもたちにとって夢や希望を叶えるための土台であり続けて欲しいと願います。

子どもたちの楽しい学校生活の応援や成長の土台を支える活動は、今しかできない、ＰＴＡならではの充実感のある活動です。

（弓削小学校ＰＴＡ　会長　下田亜矢子）

できるしこ
東区【東町小学校】

東町小学校は1974年4月熊本市東部の人口増加により、尾ノ上小・健軍小・桜木小の分離校として開校しました。学校の近隣にはスーパーマーケットなどの商業施設、市民病院・日赤病院などの病院施設、益城熊本空港インターチェンジなど生活するのにとても便利な地域です。正門を通ると大きなクスノキやソテツが開校以来児童を優しく見守ってくれています。中庭には『実りの森』が広がりミカン・アンズ・マユミ・ビワ・クリ・カキなどの木々や児童たちが育てている植木鉢など、たくさんの緑が広がっています。

今年度より元々活動していた『おやじの会』から、『東町小サポーターズ』として再出発。「できるしこ」のスローガンのもと現在30名で活動しています。東町小サポーターズ初代会長中村さんよりお話をお聞きしました。

『前身の「おやじの会」の活動の中で、東町小学校や児童をサポートするのは「おやじ」たちだけではなく、サポートしたいと思う人みんなが集まればよいのではないか？という思いから、まずは名称を変更しました。またコロナ禍の今は「できるしこ」を続け、何か目に見える活動をしていないといけないではなく、必要な時に東町小と児童たちをサポートできる存在であることが大事ではないか。コロナに対する考え方や状況が変化していく中で、少しずつできることを広げていきたい。その時その時の「できるしこ」で東町小と児童たちを盛り上げ、サポートしていければと考えています。』とのお言葉をいただきました。

東町小学校はもうすぐ50歳。たくさんの笑顔で50歳を迎え、１００歳・１５０歳・２００歳と良い学校で在り続けて欲しいと思います。

（東町小学校ＰＴＡ　副会長　藤本　博之）

ふんえん　出会い　感謝のＰＴＡ

砂取小学校ＰＴＡの岡﨑です。砂取小学校で5年間、また、市ＰＴＡに4年間関わらせていただきました。

とても充実しておりましたが、子どもが小学校を卒業するにあたり、私もＰＴＡ活動に区切りを付けたいと思いこのコラムを書かせていただいております。

ＰＴＡ活動を通じて思ったことは、この活動をしていなかったら出会わなかったであろう方々との交流ができたことに尽きます。私自身ＰＴＡの始まりはおやじの会で、先代ＰＴＡ会長との交流から始まりました。中学校区や中央区、熊本市ＰＴＡ協議会の人々との出会いは、今後の人生においてかけがえのない一生の宝であると断言できます。

ＰＴＡ活動において学び、悩み、相談し、仲間と懇親を重ねてまた語り合い、共感しあうというサイクルを何度も何度も繰り返してきました。ＰＴＡの良さは何事も参加して共感して楽しんだもの勝ちですよね。

ぜひ、皆様もＰＴＡ活動を通じて苦労を成し遂げて、充実ある生活に繋げていただければよいのではないでしょうか。

最後に、ＰＴＡという世界にどっぷりハマった私を理解してくれて、（あんまり）文句を言わず送り出してくれた家族に感謝したいです。機会があればまたＰＴＡに携わっていきたいです！今後とも熊本市ＰＴＡ協議会ならびに各単Ｐの役員ならびに会員の皆様のますますのご活躍をお祈りしたところで締めたいと思います。本当にありがとうございました。

（熊本市ＰＴＡ協議会　副会長
（中央区Ｐ代表幹事）岡﨑　淳司）

児童・生徒の活動にズームイン
照一隅

おばあちゃんのゆずポン酢

我が家にはおばあちゃん秘伝のゆずポン酢があります。庭にゆずの木があり、冬になるとゆずの実がたくさんなります。それをおじさんやいとこと収穫してゆずポン酢を作るのが毎年の恒例行事です。多いときはなんとコンテナ5杯分も収穫できます。

酢の物に入れたり、ゆず湯にしたりもしますが、ゆずを搾って果肉ごと使うゆずポン酢は、お店で買う既製品より、格別で最高においしいです！

簡単に作れるので、皆さんにも秘伝のレシピをお教えしたいと思います。

☆秘伝のゆずポン酢レシピ☆

- ゆず果汁…100ml
- 濃い口しょうゆ…100ml
- 薄口しょうゆ…100ml
- 酢…100ml

すべて同量です！

ゆずがなり続けるまで私は作り続け、おばあちゃんの味を守っていきたいと思います。

（城北小学校5年　堀田　亜弥）

編集後記

後期では市Ｐ研究大会や九Ｐおきなわ大会、各区研修会など多くの学びの場が開催されました。参加することにより新しい気づきや意識の芽生え、不安や悩みの解決に繋がるなど有意義な時間となりました。また会員同士や地域の方々との交流の機会も増え、ＰＴＡ活動の醍醐味を久しぶりに味わうことができた一年ではなかったでしょうか。次年度も皆さまの益々のご活躍を祈念いたします。

最後に、本紙編集にご協力いただいた皆さまには、心より御礼申し上げます。一年間ありがとうございました。

（広報委員長　村田　浩充（楠小））

138号編集委員（順不同／敬称略）

前田	和則（白川小）	藤本	博之（東町小）	坂本	卓也（城西中）
米村	誠（力合小）	山内	裕美（清水中）	益田	裕樹（東町中）
鶴田	友美（中島小）	津田	礼峰（河内小）	松永	圭史（力合西小）
古賀	喬（川尻小）	石永	麻衣（武蔵小）	白取	美紀（弓削小）
緒続	寛（城北小）	小嵜	友和（山東小）	酒井	伸詞（城北小）
田中	敦朗（北部東小）				